

特集コラム 星槎グループのコロナ禍への対応と課題

コロナ禍での社会貢献

ー「全力！ SEISA まなびチャンネル。」ー

保屋野 初子

1. 「学びは止めない！」を社会のみんなに

2020年のゴールデンウィーク、新型コロナ感染拡大を食い止めるための緊急事態宣言のさなかに、「全力！ SEISA まなびチャンネル。」のYouTube配信が始まった。「通学は止めても、学びは止めない！」というまなびチャンネルのキャッチフレーズは、全国一斉休校要請によって通学停止を余儀なくされた星槎国際高校の先生たちの切実な思いを表すものだった。

SEISA まなびチャンネルの第一の目的は、休校中の星槎国際高校在校生たちに対して、「いつでも、どこでも、誰でも、そしてどんな状況でも」楽しみながら学べる機会を提供すること。他方、全国には小学生から大学生にいたるまで、登校と学習の機会を奪われた子どもたち、若者たちが家に閉じ込められていた。また、在宅を強いられることになった社会人、市民たちに対して、さまざまなコンテンツがオンラインで無料公開されるようになった時期でもある。そのような社会状況のなかで、星槎の学びの内容も公開し、星槎グループとして社



写真 「全力！ SEISA まなびチャンネル。」のホームページ

会に発信し貢献する機会にしようではないかと、まなびチャンネルは YouTube による動画配信となったのである。

SEISA まなびチャンネルの対象は、小学生、中学生、高校生、および保護者、大学生、一般社会人、生涯学習者などである。コンテンツを作成し提供するのは、星槎国際高校の教員、星槎大学・大学院の教員個々の有志で、Zoom を使って自主的に動画を作成し、一定のチェックを受けたのちにチャンネルで公開する。このチャンネルは、星槎グループ全体による教材提供メディアという位置づけである。

2. 高校発のコンテンツの多彩さ、エンタテインメント性

「全力！ SEISA まなびチャンネル。」を覗いてみよう。

4 月にチャンネル登録されて以来、これまでに 200 本前後の動画が公開され、チャンネル全体で 14 万 7000 回以上の視聴がカウントされている（2021 年 2 月 8 日現在）。この視聴回数の多さには、星槎国際高校の部活動に関する動画のうち星槎国際高校高松剣道コースの 2 回分、4 万回台、3 万回台の視聴が貢献しているようである。しかし、多くの動画が数百から数千回の視聴回数を得ており、総合的に積み上がった数字といえる。

高校発の動画、および大学・大学院発の動画が同じチャンネルに共存しているわけだが、主旨からすると主役はやはり星槎国際高校在学生に向けた「星槎の自宅学習」カテゴリだろう。星槎国際高校の学びを特徴づける選択ゼミを含め数十本が公開されている。講義形式による科学、国語、数学、世界史、日本史、宇宙、古典などの授業のほか、実技・実験やハウツーを伝えるスポーツ、トレーニング法、音楽、語学、家庭科、アート、小論文の書き方などがあり、なかには大根を使った物理の実験やアイスクリーム作りの理科実験など「楽しませる」工夫、新型コロナの知識や感染防止法、手作りマスクといった時宜にかなった啓蒙的情報もおおそかになってはいない。その後も、「30 分オンライン授業シリーズ」、12 月に行われた「SEISA オリンピックス 2020 クリエイティブ部門」など新しい動画が加わり続けている。そうした星槎国際高校のテーマと活動の多彩さもさることながら、動画の作り手である先生たち自身が楽しみ、協力し合い、わかりやすく伝えようとする意気込みが画面から伝わる。技術的にも、先生たちも YouTuber 世代なのだなと感じさせる、エンタテインメント性とわかりやすさに満ちた作りが多い。

3. 編集・チェック過程を経た大学発の配信

星槎大学・大学院の提供動画はこれまでに 80 本余りが公開されている。大学からのコンテンツ提供の主旨は、「星槎大学×星槎の中高 星槎が目指す、シームレスな学びの形。全国の子どもたちに、全国の学校の先生方に、星槎大学が今できることを。」である。多くはシリーズもので、テーマとしては 11 ほど。高大連携授業に関する動画もあるが、ほとんどはコンテンツを提供する大学教員が自らの専門分野に掘りつつコロナ禍で子どもたちや大人

たちに伝えたいことを、噛み砕き、言葉と映像で構成した内容となっている。公衆衛生学、SDGs、持続可能社会、共生の知、造形ワークショップ、教育学の実践などのほか、スポーツ分野での心身の整え方や自宅のできる空手講座、アクティブラーニングなど、充実したコンテンツの数々である。「野生生物と人類を考える講座」シリーズ（西原智昭特任教授）は最終的に50回近くにわたる予定という。いずれのシリーズも、新型コロナ感染拡大期ゆえの切り口の解説が盛り込まれており、一般の視聴者にも届きやすいメッセージ性をもっている。

星槎大学のSEISA まなびチャンネルへの参加は、「とりあえずやってみよう」のかけ声のもとボランティアベースで始まった。ただし、不特定多数の人々に動画配信するという初めての試みに際しては、注意深さも求められる。そこで、学長、担当副学長、事務局、各部局の教務委員長、高大連携委員長で構成するエディトリアルボードと、配信前に技術的視点やメディアの見せ方などの点からチェックするアドバイザーボードが編成され、寄せられた動画1編ごとに編集・チェックを行う過程を経ることになった。場合によっては、動画提供者に差し戻して修正してもらい、あるいは掲載を再考してもらうこともある。著作権に関しては、2020年度は教育目的であれば著作権者に対する許諾が不要となったが、クレジットの明記といった約束ごと以外にも、その内容や質において細心の注意を払うべきことは従来と変わらない。

YouTube上とはいえ、星槎グループとして初めてオンライン上にメディアをもったことになる。新型コロナウイルス感染症拡大がきっかけとなったSEISA まなびチャンネルの試み。星槎の社会貢献のツール育ての第一歩にできるかどうかは、まだわからない。